

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所概要(事業所記入)			
事業所番号	4472300591		
法人名	有限会社 後藤企画		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	大分県由布市挾間町古野186番地1		
自己評価作成日	平成23年3月20日	評価結果市町村受理日	平成23年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 厚生労働省のサーバーへ移行中につき、現在公表されておりません

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チェリス古国府番館1F
訪問調査日	平成23年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由にいつでも庭や隣のグループホーム別館に行ける。外には四季折々の花を植え利用者が自由に花を摘み居室に飾る事ができる。天気の良い日は草花を見ながらおいしい空気を吸い小鳥のさえずりや元気な子供の声を聞きながらお茶を楽しんでいます。利用者が買い物や外食を希望すれば可能な限り即対応できる体制づくりに取り組んでいます。出来る限り個々にあわせた生活スタイルを中心に支援を行っている。また重度化しても長年住み慣れたグループホームで介護を続け支援している事。また薬をあまり使わないケアに取り組んでいる事。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧家の趣きを残しながらグループホームとして改築された本館と、新設の桜館の2ユニットの施設です。ドーナツ化現象により急速に人口が膨らんだ市郊外の地域に位置し、隣には小学校、周辺に大学病院も在ります。窓越しには、庭の花々やテーブル・山の木々を眺める穏やかな暮らしがあります。家庭的な落ち着いた明るい雰囲気の中で安心して安全に暮らせる日常を介護者の使命と志する中で、利用者の状態の変化に即した環境の改善にも邁進されており、看取り介護にも積極的に取り組んでいます。利用者一人ひとりと向き合いながら本人本位の生活を主体に、家族の協力を得ながら、地域の一員として心豊かな充実した日々の暮らしを支える介護に熱心に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング、朝礼時に確認しあい職員皆に理念を書き込んだ用紙を渡し全員で理念に関しての内容に意識し取り組みをしている。	全職員が「目配り・気配り・心配り」の絆の大切さ把握する中で、職員同士の声かけの中でチームワークを基本とし、利用者の気持ちを第一に寄り添う支援に励んでいます。理念は重要事項説明書に記載され、家族へ説明されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として町内会、自治会に加入し、地域のお祭り、学校行事にも積極的に参加している。	地域の方からの電話相談や庭での茶飲みタイムなど、ご近所とお付き合いの関係作りを大切にしています。また、地域の行事(こどもみこし・やせうま祭り等)や小学校行事(運動会・交流会等)にも積極的に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で研修や会合に参加し、認知症ケアの啓発に取り組んでいる。また随時、地域の方々から認知症の相談も来訪や電話で受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内に意見箱の設置を行い参加以外のメンバーからも聞きだせるよう行っている。また前回の推進会議で取り上げられた検討事項は経過を話し合いながらすすめている。	推進委員会への、現況の把握・地域に根付いた相互の関係づくり、相互のコミュニケーションづくりに努めている様子が伺えます。会議では『地域に根ざした施設の在り方』等についても、見解を深めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村に対し積極的に相談事項等を発信し考え方や実態を相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域に根ざした役立つ施設へ前進する事を志士として、市町村との相互の関係作りに取り組んでいる様子が伺えます。	管理者は、地域施設の特性や地域性と施設のニーズ、住民の意向・動向等を見極めながら、行政の視点からのアドバイスを大切にしたり取り組みを実践しており、更なる質の向上に期待がもたれます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒に歩いて行く等、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるようにしている。	「身体拘束排除宣言」が定められ、全職員の周知が図られる中で、職員相互の気づきの大切さを理解しており、さり気ない声かけ(楽しみの提供)を通して利用者の心に寄り添う支援・身心の拘束を排除するケアの実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待の事に触れ、話し合いを持つとともにプリントを作成、配布して皆で防止する事に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。また社会福祉協議会等が主催する成年後見制度の研修があれば参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している時に利用料金や起こりうるリスク重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについては詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には電話、手紙、訪問時に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い反映させている。	全職員で、利用者一人ひとりの思いを尊重した支援の実践と現状の把握に努めています。その上で、家族への情報提供の一本化を目的として、管理者が中心となり家族との対応(現状報告や希望・要望・意見等の把握)に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会、個別面談などで意見を聞くようにしている。また日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ問いかけしたり聞き出したりするようにしている。	全職員の学びの姿勢を大切にした取り組み(本・DVDの設置と感想文の提出)により、個々の職員の目標に添ったスキルアップを支援しています。調和的で友好的な職員関係を基盤に、『気配り・目配りの支援による介護資質の向上』に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており利用者と過ごしたり個別職員の業務や悩みを聞きだしている。また向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはなるべく職員が受講できるようにしている。また報告書を作成し皆で共有できるようにしている。働きながら介助方法など、その都度教えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や同時期に開所した事業所など定期的に学習会や交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する事前に数回お会いし本人の状況を把握し信頼関係をつくる事につなげ不安を受け止め安心してもらえるような関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況を把握する事によって苦勞やこれまでのサービス利用状況が理解でき家族が求めていることに対し今後のケアサービスの中に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人、家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め事業所として出来る限りの対応に努めるとともに場合によっては他事業所、支援センターにつなげる対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし学び支えあい、利用者は人生の先輩であるという考え方を職員が共有しており利用者からいたわってもらったり励ましてもらった場面を自然と作り出している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え家族と職員の思いが徐々に重なり本人を支えていくための協力関係が築ける事が多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの延長線上であるよう知人や友人に会いに行ったり訪問して頂けるよう電話や手紙で連絡をとりもち、つながりを継続できるよう支援している。	馴染みの関係の維持継続は、家族の承諾のもとで築かれています。職員は、利用者一人ひとりの思いに寄り添いながら気づきの心で接する姿勢が大切である事を周知する中で、日常的な取り組みとして、つながり保持の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり相談にのったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをし、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方も定期的に訪問したり、また家族の方とはメールや電話でやりとりし継続的な関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の意向に答えるために日々のコミュニケーションを図る中で常に選択できる様に心掛け、また表情からの真意を察したりしている。意思の疎通が困難な方は家族などから情報提供を得ている。	一人ひとりの利用者が「何を大切にされて来たのか・今、何を思い・何がしたいのか等」折々の思いに気付ける職員の姿勢を大切にしています。積極的な家族の協力を得ながら、より利用者の思いに添える支援の実践に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時には、自宅を訪問し本人との関係者から聞き取りを行い本人からも、どんな生活をしていたのか会話を通し情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、睡眠、排泄の時間など1日の中で、どのような体調変化があるかなどを理解し必要な時は、職員間で話し合い本人のできる可能性を感じ取り一人一人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議で課題となっているケアについてスタッフ全員で話し合いケアを作り上げている。また家族、本人からも日頃の関わりの中で家族、本人の思いを全体会議などで反映させ介護計画の作成をしている。	「N式老年者用日常生活動作(能力)評価尺度」を取り入れており、職員間での情報の共有も図られています。利用者の思いの反映・心身の状態と支援の状況、家族の要望、職員の意向が全職員で協議され、計画の策定が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し食事、水分量、排泄等、身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも職員が確認できるようにしており勤務開始前の確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのボランティアの来訪や訪問理容の来訪。隣の小学校の教育の一環として小学生が利用者と交流できる場面作りを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からの、かかりつけ医での医療を受けられるよう家族と協力し通院介助を行ったり訪問診療に来てもらったりと複数の医療機関と関係を結んでいる。	協力医療機関やかかりつけ医への通院介助など、利用者や家族の希望にそって支援をしています。協力医の往診もあり、緊急時には医師、看護師の連携が図れており、迅速な対応を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化等に気づいたことがあれば、直ちに看護師に報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し頻繁に職員が見舞うようにしている。入院によるダメージを防ぐため医師と話しをする機会を持ち事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切にしつつ家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごしていけるように取り組み急変の際は、すぐに対応できるように医療機関とも密に連携を図り対応している。	契約時に重度化や終末期について対応指針を説明し、家族と意思確認の文書を取り交わしています。実際に看取りを行う場合は、細かく説明し、職員、家族、医師がチームとなり家族や利用者の望む支援ができるよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや時間の合間をみて想定した状態で体験、体得できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方の訓練指導を定期的に行っている。またマニュアルも作成し備蓄品も準備している。施設内の全居室にスプリンクラー設置。	年2～3回自治会も参加して、避難訓練を行っています。消防への緊急通報システムとスプリンクラーを設置しています。夜間や地震に対する訓練の必要性を認識しています。	近隣には単身者アパートが多く、協力を依頼するのは困難なところがありますが、自治会を通し緊急時の協力の呼びかけを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	個人情報の漏洩には、十分配慮しています。支援が必要な時は本人の気持ちを大切に、さりげなくケアするよう心掛けています。特に日頃の言葉かけ、入浴、排泄時は耳元で誘導する等気配りがされています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃、利用者に関わる中で利用者の希望、関心事、嗜好を見極め複数の選択肢などを提案し、一人一人が意思決定をできるように場面づくりをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活リズムの流れは作っているが時間を区切った過ごし方はしていない。また買い物や散歩等一人一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルや色を把握し、その人らしさを保てるような手伝いをしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲を皆で協力しながら食事作りをしている。また片付け等と一緒に利用者で行って食事を1日の大切な活動のひとつとしている。	メニューは四季折々の旬の味を活かした料理を考え、利用者の好物を取り入れるように作っています。配膳、食器を拭く、おやつを作る等の協力もあり、食事をつくる音、匂い等五感で楽しんでもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックし個別の残食量等も記録して、おおまかに栄養摂取量を把握し職員が情報を共有している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きへの声掛け誘導し個々のレベルに応じて行っている。また夕食後は入れ歯いれで預かり週一回のポリドントで洗浄している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用しパターンを把握し、なるべくトイレの排泄が出来るようにしている。	チェック表で排泄のパターンを把握し、声掛けによる誘導を行っています。自尊心に配慮し、利用者の様子から察知しトイレでの排泄の支援を行っています。	便秘予防に繊維のある食材や、散歩等の運動を取り入れています。身体機能の向上も含めリハビリを取り入れることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の水分補給に心がけチェックシートを用いて個々の便の習慣を把握している。またトイレ誘導時に腹部マッサージをしている。硬便になりやすい方に対しては酸化マグネシウムを使用し便が出やすいようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の思いを最優先にし入浴したい日、希望する日に、または時間外の入浴に関しても柔軟な対応で支援している。	入浴に関しては希望を優先し、柔軟な対応をしており、健康状態を考慮しながら支援をしています。カボス湯、ユズ湯等入浴の楽しみも提供しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の生活活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。また眠らない時には添い寝したり温かい飲み物を飲みながら、おしゃべりをするなどして配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し誰でも目が通せるようにしている。また新しい薬を服用する時などは目的や注意すべき事などを職員に話し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力が発揮できるような、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。また日々の中でその人に沿った楽しみや役割を見つけられる様に職員同士で共有し支援につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の希望や気分に応じて季節を肌で感じてもらい心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブに出かけている。	天気の良い日には、庭で草花を觀賞しながらお茶や食事を楽しんでいます。又少人数で外出をしたり自宅を見に行くなど、希望に応じて買い物等の支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て本人が財布を持って買い物に行く時には本人が支払いが出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキがいつでも書け出せる様にホームでも用意している。また年末は年賀状を希望する皆で作成している。電話は子機を四台用意し、いつでも使えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、季節を採り入れた草花や食べ物をさりげなく共有空間に置き、五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。	ホールの中にはソファが幾つも置いてあり、歩き疲れた利用者が座れるよう配慮しています。庭に咲いた花をホールや居室に飾り四季を感じています。趣味の物を壁に貼る小グループができ、話す空間一人になりたい時の空間があり楽しく笑顔でいてもらうための工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やベランダにソファや椅子、テーブルを用意し仲の良い利用者同士で、くつろげるようスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人が使い慣れたベッド、タンス、椅子など好みの物を取り入れて本人が居心地良く生活できるようにしている。	自宅との違いによる不安やダメージを最小限にするための環境作りとして、馴染みの家具、家族の写真等を置き、居心地よく暮らせるよう個別に支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂、トイレ、廊下などには手すりを設置し自立歩行の安定を図っている。		